

ささえ愛まえかわ

小規模多機能・長岡開設に向け準備中

長岡市の選定を受け、来春3月、長岡市上前島3丁目にささえあい生協の10番目の小規模多機能介護事業所「ささえ愛まえかわ」を開設することとなりました。予定地には現在建設が進んでおり、10月17日に地鎮祭を終え、12月15日に上棟式を行います。



10月17日の地鎮祭の様子

<連載> ともに 支えあって 生きる社会をめざして (2)

理事長 高見 優

当事者とはだれか？

21年前、山一証券が自主廃業しました。なんと社員は、当日朝の新聞を見て初めて会社が消滅することを知ったのです。

<NHKスペシャル>平成史スクープドキュメント第2回「バブル 終わらない清算～山一証券破綻の深層～」(12/2 放映)を観ながら、社員は当事者ではないのか？社員なくして事業は成り立たないのに…と私は思いました。

野澤社長(当時)が、「私らが悪いんであって、社員は悪くありませんから」と涙の記者会見をする映像が何度も流れました。バブル経済に浮かれてボロ儲けしたけれど、バブル崩壊後に得意先の大企業へ数千億円もの損失補填をし続け、そのことを隠蔽したうえペーパーカンパニー(架空会社)に飛ばし、決算書を操作したのです。しかも、不正をやめようという役員の声を封殺し、6年間も問題を隠蔽・先送りしていたのです。

今でも企業による様々な違法・不正行為が、東芝やスルガ銀行などで繰り返されています。

不正がなければよいのか？ といえば、私には疑問があります。どうしてか…

ある企業経営者の成功物語によれば、業績不振の会社に送り込まれて赤字を脱却し、業績を向上させ多額の儲け(剰余)を生み出し株主に高配当金を支払い株の時価が高騰した、という。この場合の成功とは、企業の儲けや株主への配当の大きさから判断しているだけで、社員や顧客そして地域住民にとって果たして満足できるものか、地域経済にとって有益なことなのか、検証しなければならないと思うのです。

実際、県内に進出して雇用を拡大し地域を潤した企業が、その後撤退し地域がすっかり衰退したケースがあります。中には、公害をまき散らし地域の自然や住民を傷つけて去った企業もありました。

これを「内部経済・外部不経済」といいますが、すなわち、企業の内部それも会社資本の増加、内部留保の拡大、株主の利益と少しのおこぼれに与る一部の労働者に対して、多くの労働者とくに非正規・下請けの人や地域の商店街や住民にとって益少なく、負債だらけ…

私たちは、はたらく人も地域でくらす人も、生産者も消費者も、ともに支え合って生きる地域共生社会をめざします。協同労働の協同組合は、みんなで出資し共に働きながら事業を営み、支え合いの関係をつくっていきます。そのために仲間を増やし、つながりの輪をひろげます。それが私たちの組織(組合員)拡大運動です。

国連でもSDGs(持続可能な開発目標)を掲げ、貧困や飢餓、健康・福祉、教育、自然や町づくり、平和など17の目標を掲げており、私たちもそれと連動していきたいと思えます。

(ご感想・ご意見をお寄せください：編集部)